

さみしい夜の句会報 第86号 (2022. 10. 9-2022. 10. 16)

- ◆ 参加者: sarasa、水の眠り、しまねこくん、白水ま衣、風池陽一、Millient、susyu、むくみんママ、せば、石川聡、睦月ヨシ、森内詩紋、海馬、元さん、まつりべきん、木野清瀬、西脇祥貴、相田えぬ、岡村知昭、空瓶、糸瓜囃子、おかもとかも、こぼやし南子、しもじょう、休庵、しるとも、西沢葉火、桜秘密子、由湖、花野玖、宮坂愛哲、雲上晴也、太代祐一、岩瀬百、Moon、ぼつぼ、池田吉輝、日月星香、桔梗薫、式定住佳、夏野ネコ、雪夜舞星、抹茶金魚、蔭一郎、たし、東ころ、石原とつき、金瀬達雄、ころんころん、あ、小沢史、棚場田敦也、さー、最中妙、日下昊、鶴子、naitai、Ryu san、馬勝、和泉明月子、鴨川ねぎ、橘月子、徳道かづみ、灰猫ニボン、涼閑、しよおと、睦月ヨシ、たねまる、コネコノピッチ、相見美緒、とうてつ、千春、Tonoko、hyutoppa、涼、雷(らじ)、天やん、Crazy Lover、みんな、輪井ゆう、Butaka、汐音、葉月、Hira、Tomo、ゆりのはな、さこ(砂狐)、伽羅、たろりずむ、藤井智史、生・存、ちゅんすけ、かなず(梨山)、憩、mumochi、マジカルらぶにゃん、寫りす、ひまふみ、叶裕るなつ、四月一日(わたぬき)、スタ・エレ、三月(みつき)、旭鷺沼くぬぎ、月波与生(一〇四名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

冬林檎ヘルプマークの意味知らず かなず
耳たぶを二枚重ねにして寒露 しまねこくん
わたくしをモザイクにするキミの声 ちゅんすけ
ミルクジャムが好きな冷笑系のほくら 海馬
刺す方も刺される方も体育の日 しまねこくん
障子貼る糊を舐めたら甘くつて しまねこくん
光降る退化した目の魚にも 輪井ゆう

扇風機ほぐせば秋の棒となる ぽっぼ
電柱だけが挙手する街 おかもともかも
哀れ蚊の針から打者が一巡す しまねこくん
新学期あの先生のいなくなり 池田吉輝
葬列を離れて入る芋煮会 蔭一郎
ソラシドは秋の時雨の音階に 蔭一郎
二人称は生食には向いてない 白水ま衣
午後の死を閉じ込めてある青蜜柑 石川聡
のり弁なあなたで愛す 石川聡
いくたびも膀胱に夜をたずねけり 石川聡
メニユーには無いニワトリの死を頼む 西沢葉火
捕鯨船花を一本あげましょう 千春
空爆のやさしい夜や鯨釣る とうてつ
青蜜柑あなたは表裏がない 糸爪曜子
乾いた夜、肺をお散歩させている 海馬
まばたきをするための螺子なくしたの 蔭一郎
ほくろからほくろへ虹はだらしなない 海馬
てのひらに熱い鸚鵡を乗せる刑 岡村知昭
じゃんけんぼん 〰度と話しかけるなよ おかもともかも
運命の「う」は宇宙犬の「う」 白水ま衣
風ぢやなきやただの無色になつてたぞ しまねこくん
いくたびも膀胱に夜をたずねけり 石川聡
土踏まずウイスキーで地雷ふまず 石川聡
自販機の兄がなかなか出てこない 小沢史
窓辺では生没年も粉チーズ 白水ま衣
ラジオから雲が流れる音がする 蔭一郎
ビニール手袋の舌で⑤をタッチ 抹茶金魚
知性とはふたりを別つ菊の墓 木野清瀬
フィルターに生まれてきてこのていたらく 岩瀬百
かわいいは三点倒立したがる 白水ま衣
あおぞらを溶かした水は有毒だ 白水ま衣

祝祭に馴染めないまま豚、肉 おかもともかも
「ダービーに燃える」は誤字 男は誤字 西脇祥貴
口紅を落として鮫の歯を祀る 岡村知昭
サルビアは帰らぬ子らになほ赤く 木野清瀬
生きてゆくスーツ姿の焼け野原 まつりぺきん
終われない目頭光る2ピクセル まつりぺきん
記憶にも留守の日はあり秋日和 睦月ヨシ
バタフライ効果のような白い息 さー
椋鳥の知恵集めても空遠し 和泉明月子

かもめかもめはぐれてひとり秋の風 sarasa
うねる線虫 線形代数の中 水の眠り
バラ売りにひとつになりぬ林檎かな 風池陽一
鶴わたる地へ移住せよ淋しもの syusu
月欠けて虫のぶつかる音したる せば
芋洗う女の唇の赤きこと 森内詩紋
あつけなく生きてるぼくらを笑つてよ 相田えぬ
こっそりとひとつ外しておくボタン 空瓶
想像力欠乏症にサブリなし こぼやし南子
冷や暑の風が 風邪呼ぶ病弱体。一休庵
鳴き疲れ眠る鶴そつと撫で 花野玖
ビーチ沿い左カーブの先の海 宮坂変哲
手荷物を提げて背負つて秋日和 雲上晴也
背景に海引き連れてわらう君 太代祐一
君が為燃ゆる悲しみ彼岸花 Moon
ちよこつと心配させるリトマス紙 流天
群れ飛びを承認してと椋鳥言う 日月星香
ザワザワとこそばして来る刈田の間 黎明
人生に意味を欲しがる暇な人 式定住佳
あのラジオ動かないけど息してる 糸瓜囃子
秋冷や波に季節を探しゆく 雪夜彗星

川越まつり 行きたいな… fuu_
耳たぶにふれてあなたは遠い月 東ころろ
諸掘ってお返しくれる友にTEL 金瀬達雄
ぼくだけがぼくを知っている うれしさ ころんころん
鯨の字がむつかしくて読めないのだからな あ
雪虫の知らせ暖冬を願うばかり 日下晃
亡き父を思ふて秋刀魚一匹焼く 鶴子
溢そうか穢したいほどハイターは無い najimi
席替えの理由としての野性保護 Ryu.sen
さみしさで壊れた玩具放屁虫 馬勝
人生は苦楽のミックスジュースだね 鴨川ねぎ
今日もまた蜘蛛のさえずる夜がくる 橘月子
もうあとは余白しかない人生を 灰色ニボシ
よく見ると自分の映らない鏡 涼閑
帰り道 夜風に香る 金木犀 たねまる
猫係のような者ですと言う女 コネコノビッチ
グミつて食べたことないんだ秋の雨 hyuntoppa
夕食の後片付けが骨折れる 涼
聴く耳は海へワイパーゴムの鳴き 雷
秋雲や自由な形のままがいい 天やん
ワクチンじゃ防げないのよ感染症 crazy Lover
色なき風介護の声も消されけり Eureka
楓落ち 北欧石畳に燃ゆ 美しき絨毯 Hina
振り上げし拳の行方秋さびし Tomo
歳時記の秋が私を泣かせるの ゆりのはな
触れ合えば離れてしまうsとn さっし
柘榴一粒鬼子母神にもらった 伽羅
オーロラを全然見ない次女三女 たろりずむ
賑やかな愛に淋しいハイボール 藤井智史
わたくしをモザイクにするキミの声 ちゆんすけ
鼻先の檸檬憂い眠りを禁ず mugwort

沈黙を眺める絵のない美術館 月波与生
だすげまいね復元される愛国者 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

夕焼けと朝焼けやめた太陽が「虹もやめる？」と空に問う
秋 しもじよう

腕がもうそこに来てみて晩秋の物干し竿を竹から離す ぽ
っぽ

真夜中の体育館でぼくたちは目隠しのまま走り続ける 蔭
一郎

眠気差す朝のカフェオレ秋の朝今から何かを成そうとする
とき Millicent

あん時の兄ちゃん的笑顔どこに行ってしまったのだろう
む〜みんなママ

夏の恋歩道を滑る木葉にも終わりを告げる別れの合図 元
さん

プラナリアは見たことないけど私がかかった呪いに似てい
るね しろとも

落葉が彩る小道鮮やかにもうじきこも白無垢纏い 柀秘
密子

聳え立つツインタワーの遠い灯（ひ）に潜む信号さがす南
窓 由湖

歴史的一夜であったチューハイの缶ごとく投げつけら
れた 夏野ネコ

人骨が金属探知機にかかるか否かで揉めている 棚場田敦
也

真夜中のとびらはいつも閉じている ノックしちゃダメ
よあしたが消える 最中妙

質問はもうないですか ではこれで生まれ方講座は終了し
ます 鈴音

ほろほろと肉でもないのに崩れてく私の心もう戻らない
しよおと

花びらが散った速度で生きていく髪の毛を梳く冷たい夜風
相見美緒

悪い事しても我が子はただ我が子 母国は母国 ただ切な
くて Tomoko

「のり弁当を訳したら？」オストラコンかな。「それ、いい
ね」 石原とつき

肌馴染み襟が擦れた♡シャツを優しい靴拭き再利用 夫の
物で叱られた みんな

視界の隅 月が綺麗と仰いでも煌々とするのは街灯ばか
り 汐音 葉月

安酒をコールする声が幼くて世界が減れば良いと思った
生・存

◆ 詩

外暗いやん もう鈴虫泣いてへんし

外明るい間にねんねしたいのに

どうせアイマスクするくせに (マジカルらぶにゃん)

◆ 作品評から

記憶にも留守の日はあり秋日和 睦月ヨシ

〜優しい嫁が居て幸せお義母さん(寫りす)

〜私の母もそうでした。飛行機に乗って年に2、3回会
いに行ってたけど、その度に(ひまふみ)

ダービーに燃える」は誤字 男は誤字 西脇祥貴

〜競馬好きなものでダービーは燃えます。しかし興味な

い方からしたら誤字同然。なにやってんの、との呆れ顔。ダービーは男の勝負さ、と気取ってみたら、またまた呆れ顔。男振りかざすのも誤字同然。ただ、当人は気づいていない、だって男で、誤字だから。(岡村知昭)

だすげまいね復元される愛国者 月波与生

好きです (森内詩紋)

土踏まずウイスキーで地雷ふます 石川聡

〜句会間に合わず申し訳ありませんでした。ウイスキーうまくてびっくり。ありがとうございます！(叶裕)

二人称は生食には向いてない 白水ま衣

〜あなたと私しかない文章。そして物語。他の誰かがスパイスになってくれれば味わうこともできるけど、ありのままの私を見せたり、素のあなたを見るのは怖い。毒になるかもしれないから。(西沢葉火)

猫係のような者ですと言う女 コネコノビツチ

〜猫は気ままな生き物。束縛されるのを嫌う。それを知りながら上手に猫を操るのが飼育係の仕事。そう言うて行きずりの女は薬指のリングを隠しながら、カクテルに口を付けた。(西沢葉火)

のり弁なあなたで愛す 石川聡

〜のり弁は安いけど、美味しいし、お腹いっぱいになるし。たまに焼き肉弁当にしちやうけど、やっぱりのり弁に戻ってくる。そういうのり弁みたいなあなただから、愛しています。(西沢葉火)

あおぞらを溶かした水は有毒だ 白水ま衣

〜意外な展開に、おおっ?! と驚きましたが、そうか、

美しいものは毒にもなりますよね
わたしの心では吸いきれない青(るなつ)

カモメにも賄賂を渡しておきなさい おかもとも

カモメも貰つてははずだから村中の人犬猫鳥はもう賄賂を貰つて。もしかしたら魚虫も貰つたかも知れぬ。しかしオレは貰っていない。何故だ何故だ何故だ。の句。(月波与生)

ソラシドは秋の時雨の音階に 蔭一郎

〜好きです(森内詩紋)

川越まつり 行きたいな…: fuu

スカラ座にかかつてる紅白幕を観に行きたい。と思いつつ元々人混み嫌いな上に感染状況がどうもリバウンド傾向が見えるらしく…。(四月一日(わたぬき))

〜お近いんでしょう?お仕事ですか。それともやはりまだ密な状態が心配ですか。(スタ・エレ)

鯨の字がむつかしくて読めないのだらうな あ

〜はぜ。確かに初見で検索致しました。繪畫(かいが)も。

(三月(みつき) 旭)

自販機の兄がなかなか出てこない 小沢史

〜わたしは「姉」です。年の離れた弟がいます。仲は良いですが、弟が生まれた時からいろいろなことが変わってしまいました。「妹」になりたかつたなあ。姉ではなく兄が欲しかった。若い頃に付き合つた人たち、今思えばみなさん「兄」たちでした。(木野清瀬)

いくたびも膀胱に夜をたずねけり 石川聡

く良く眠れます様に (鷺沼くぬぎ)

パッキンを愛に含める中島みゆき 西脇祥貴

く中島みゆきの句はすべて結語が「中島みゆき」で終わる。毎日数句ずつリリースして現在どのくらいの句数になったのだろう。ライフワークとしてほしい。(月波与生)

メニユーには無いニワトリの死を頼む 西沢葉火

く焼き鳥、唐揚げ、ローストチキン。飲食店で提供される「ニワトリの死」は数多くあります。しかし、作者はありきたりのメニユーを拒否し、まだ見ぬ新しい「ニワトリの死」を求めました。「鳥料理」ではなく、「ニワトリの死」と表現したところに、作者の緊迫した渴望を感じます。(徳道かづみ)

死にたいと思うくらいで腹八分 式定住佳

くこの句もTシャツにプリントすれば売れそうなコピー。句はやや教訓に流れながら「腹八分」が死にたい気持ちをも馬鹿々々しくしている。(月波与生)

雑巾へ腕のねじりを移しきる 抹茶金魚

くどれほどの思いを込めて「腕をねじ」ったのか。「移しき」って身は楽になっただろうか。(月波与生)

終われない目頭光る2ピクセル まつりへきん

く片目1ピクセル、両目2ピクセルか……。ちょうど涙腺の穴のサイズっぽいですね。なにが終われない、なぜ終われない、よりもピクセルの色に気持ちがいっちゃいます。

(西脇祥貴)

阿佐ヶ谷姉妹までは晴れ 石川聡

〜ギョーニク。Tシャツのコピーとしてもいい感じで、
多分他のメディアを結びつくことでより言葉は機能的にな
る。(月波与生)

虚子の顔だけ並ぶzoomの画面 蔭一郎

〜碁盤の目のように並ぶ顔は「虚」子の顔だという。ネ
ット依存社会の退廃感が漂う。(月波与生)

刺す方も刺される方も体育の日 しまねこくん

〜小さく前へ做わずに跳べ(鷺沼くぬぎ)

障子貼る糊を舐めたら甘くって しまねこくん

〜ちよつと好きすぎて全部にいいねしそうになりました。
フォロワーさせてください。よろしくお願いします。(糸瓜曜
子)

限りなく伸びる空あり七竈 花野玖

〜燃え残る御霊地にあり七竈 言葉 ありがとう御座い
ます。(naajimi)

賑やかな愛に淋しいハイボール 藤井智史

〜川柳が沁みる夜です。フォロワーありがとうございます。
よろしくお願いします(糸瓜曜日)